

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 11 期 だい 2 年 だい 1 回 だい 1 にち
(第 11 期 第 2 年 第 1 回 第 1 日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2017 (平成 29) 年 4 月 23 日 (日) 午後 2 時 ~ 5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20 人

葉 元聡、チャクラヴァルディー アルナンシュ、金 スンオグ、タカハシ
ライゼール ラモス、幕内 嘉雯、河本 ファビオ 良則、ヘイ ジャフイ、
スタント イルワン、ピーターソン ケリー、河 相宇、バルトコバ オクサナ、
ホサニ アハマド ユースフ、牟 鳳菊、ドイツトマー ダニエラ、韓 簫、
ケゼングア エドワード ムウィンビ、徐 智妍、キースタ ケーシー ジェイ、
蔣 香梅、サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、須藤 課長補佐、丸橋 職員、西村 職員、平山
職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 0 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ヘイ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2017 年度、第 1 回
第 1 日を開催する。本日は、レ ベトさん、アスカさん、ヴィラマーさん、

鎌田さん、鈴木さんから欠席の連絡が届いている。次に、本日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ヘイ委員長「今日はとてもタイトなスケジュールとなっている。できるだけ部会審議に時間を使いたいと思うので、スムーズに進むよう、協力をお願いする。では次に、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、議事に入る。まずは、代表者の欠員と補充について。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、代表者の補充を希望するか決めたい。事務局からの説明にもあったように、残りの期間が1年を切っているということもあり、今回は補充を希望しないということにしたい。賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数)では、補充を希望しないということで決定した。次に、臨時会についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。今日は、臨時会を一般の参加者も意見を言ったりできるオープン会議とするかどうかだけを決めたい。具体的な内容などは、次回以降の実行委員会や全体会で話し合っていく。オープン会議とするかどうかについて、何か意見はあるか。(なし)それでは、今年度の臨時会をオープン会議とすることに賛成の方は手を挙げてください。(賛成多数)では、臨時会はオープン会議とするということで決定だ。次に、市の審議会等委員について。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料4に基づき説明。)

ヘイ委員長「さっそく決めたい。まず、成人式企画実施委員会について立候補したい人はいるか。(なし)では、かわさき市民祭り実行委員会に立候補したい人はいるか。(サリ委員が挙手)サリさんでよいという人は手を挙げてください。(賛成多数)それでは、かわさき市民祭り実行委員会はサリさんをお願いする。では、あらためて成人式企画実施委員会について、誰か立候補はいるか。」

河委員「やらせていただく。」

ヘイ委員長「では、成人式企画実施委員会について、河さんが立候補してくれたので

賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数)では、河さんで決定だ。それでは、部会審議に移る。情報・社会教育部会の人は移動をお願いする。全体会の再開は16時20分だ。」

【情報・社会教育部会】

ピーターソン部会長「それでは、情報・社会教育部会を始める。前回の会議の確認については、全体会で報告があった。今回は、とくに改めて確認することもないと思うので省略でよいか。(異議なし)それでは、今日のテーマは大人の日本語学習と外国人向けのアリエンテーションコースについてだ。今日の部会の進め方だが、まずは参考人招致を30分。次に、事務局からの資料説明を15分間。残りの時間で話し合いということで考えている。今日はあまりディスカッションをする時間がとれないと思うが、このテーマは2回に分けて審議することになっているので、次回じっくり話し合いの時間をとれるようにしたい。それでは早速、参考人招致を始めたい。今日は、国際交流協会の渡部課長と中村課長に来ていただいている。どうぞよろしくお願ひいたします。」

(事務局丸橋職員が資料5-1に基づきアリエンテーションコースについての事前質問を読み上げ、渡部課長と中村課長が回答。)

ピーターソン部会長「ありがとうございます。それでは約15分間、追加の質疑応答としたい。何か質問はあるか。」

ヘイ委員長「アリエンテーションコースについてだが、質問の(4)でニーズの多い相談内容については特化した説明会などを開催しているとのことだが、これはどういった人が教えていて、頻度はどれくらいで、どうやって広報しているのか。」

渡部課長「たとえば、市営住宅の入居については市が募集時期を定めているので、その時期が近くなったら開催する。例年、年に1回、5月から6月くらいだ。防災については、一昨年くらいから市でやっている防災訓練に参加して、連携するようにしている。教育については、昨年度、学校の正式な入学説明会の前に外国人市民に特化した説明会というのを初めて開催した。全部で20人から25人くらいの参加があった。」

ヘイ委員長「それぞれの当日の説明には多言語の通訳がいたのか。」

渡部課長「英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語に

かんしては相談員が全員出席して対応できるようにした。場合によっては、ボランティアの方にも声をかけて来てもらうようにしている。」

徐委員「外国人が最初にこのセンターを知る機会は何だと思うか。」

渡部課長「ウェブサイトが多いと思う。センターの場所がわかりにくいというのは、ずっと前からの課題で、元住吉駅からの道に案内を多く出すなど努力している。」

中村課長「区役所で転入者に渡すウェルカムセットの中に、日本語が勉強できる場所、外国人相談をしている場所ということでセンターの情報が載っている。センターのパンフレットやリーフレットが入れられるともっとよいと思う。」

徐委員「どうやってこのセンターを知ったなど、アンケートはとっていないのか。」

渡部課長「講座などの行事ごとにアンケートはとっている。」

中村課長「センター自体についてどこで知りましたかというのは聞いていない。」

徐委員「講座の場合は、どうやって講座のことを知って来るのか。」

中村課長「チラシやウェブサイトの情報を見てだと思ふ。」

徐委員「それだと、このセンターを知っている人は参加するが、そうではない人にはまだ情報が届いていないように感じる。」

中村課長「外国人市民意識実態調査でも、半分ぐらいの外国人の方しか、センターのことを知らないというデータも出ているので、それが実態なのだと思う。」

ディットマー委員「日本語学習についてだが、どういった外国人が多いか。何か傾向はあるか。」

中村課長「最近是中国の方が多。それから、ベトナムとネパールも増えている。夜のクラスだと、日本の会社で働くために来て、会社から受講料を出してもらって通っているという人も。午前のクラスだと、保育があるので子どもを保育に預けて勉強する人も。日本に来たばかりの人が多、20年以上いるが日本語が十分ではないということで通い始める人も。」

スタント委員「仕事をしている人は、4月から始めるケースが多か。」

中村課長「3月、4月が異動の時期なのでやはり多。」

ピーターソン部会長「時間になったので、参考人招致はここまでにしたい。今後の審議の中でまた質問やアイデアなどが出てきたときには、あらためてご協力をお願いすることがあるかと思う。そのときは、よろしくお願ひします。今日は、ありがとうございました。それでは、事務局から資料の説明をお願ひする。」

(事務局丸橋職員が資料5-2～5-7に基づき説明。)

ピーターソン部会長「では、ここからはディスカッションをしたい。本日の論点としては、ひとまず日本語学習とオリエンテーションコースをセットにしたが、本当にセットにするのがよいかどうか、目的は何か、対象は誰かという辺りだ。私の印象では、日本語とオリエンテーションコースをセットにするのは、ちょっと難しいと考えている。みなさんはどうか。」

サリ委員「私もセットにする必要はないと思う。オリエンテーションの中で、日本語のプログラムの紹介をするというところまででいいと思う。」

ピーターソン部会長「日本語については、オリエンテーションの中で教えるのではなく、紹介をするという理解でよいか。」

スタント委員「私も別にした方がいいと思う。」

キースタ委員「別々でやった方がいいと思う。それと、会議で何度も言っているが、大人の日本語学習に関して川崎市はすごく有意義な取組をすでにやっている。課題としては、もう少しその情報をうまく発信することだと思う。」

ピーターソン部会長「みなさんの中にセットにした方がいいという人はいるか。(なし)では、これからは別々に審議していくことにしたい。次の論点として、オリエンテーションの目的は何か、行政がやるべきか、ということについて話し合いたい。意見はあるか。」

サリ委員「行政がやった方がいいと思う。偏見かもしれないが、民間だと利益を上げるということがあるので、内容に偏りが出る気がする。」

スタント委員「オリエンテーションは一般的なことの説明について、行政がするのがよいと思う。」

徐委員「日本に初めて来て、日本語もできなくて、どのくらい住むかも決まっていな人もいると思うので、電車のことや銀行のこと、文化のことなど基本的な生活情報をもらう機会にするのがよいと思う。」

ディットマー委員「いろいろな人のいろいろなニーズがあるので、それを全部まとめてパッケージにするのは難しいと思う。すでに国際交流協会が個別の説明会をやっているということだったので、それをもう少し制度化して、定期的にやるというのでもよいかも。どこがやるべきか、ということでは行政がやるべき、とまでは言えないように思う。紹介のあった仙台の事例でも、やっているのは国際交流協会のようなところだ。市は国際交流協会と連携したり、支援したりという方がいいかもしれない。」

ヘイ委員長「ダニエラさんの意見に賛成だ。国際交流協会が持っているノウハウや実績を活用した方がよいと思う。目的としては、仙台のチラシにもあるように生活に必要な情報提供やアドバイスということが第一だと思うので、それこそ日本語学習とは切り離れた方がよいと思う。そう考えると、日本語学習の分野で、私たちがこれ以上何か新しい取組を考えるのはすごく難しい気がする。できるとしたら、やはり情報発信の方法の改善くらいではないか。」

キースタ委員「もともとのテーマが出てきたときには、オリエンテーションの受講を義務化するという話もあったと思う。個人的には、それは難しいとと思っているがみなさんはどうか。」

デイトマー委員「義務化というのは私が少しチャレンジングに提案したのだが、資料にもある通り、ヨーロッパで実施している場合には、そもそも移民の割合が日本とは大きく違うし、国が政策として主導しているというのがある。私が提案したのだが、あらためて考えると川崎市が独自に義務化というのはできないと思う。」

徐委員「私も義務化は難しいと思う。そのうえで、オリエンテーションの対象が決まらなると、目的やプログラムを考えることは難しいと思うので、その辺りについて話し合うのがよいと思う。」

ピーターソン部会長「ヘイさんやダニエラさんは対象についてのイメージはあったか。」

ヘイ委員長「私のイメージでは、やはり来たばかりの人かなと思っていた。転入してきた人にウェルカムセットを渡していると思うので、その内容を中心に説明するのがよいのではないか。」

デイトマー委員「私も同じだ。他国で義務化している場合でも、対象は新しく来た人たちだ。」

チャクラヴァルティー委員「オリエンテーションはあった方がよいと思う。仕事で来たり、配偶者として来たりなどいろいろな理由で来る人がいるので、内容としては最小限の生活のサポートでよいのではないか。詳しいことが知りたければ、後から自分で調べたり、相談したりすればよい。日本語については、それぞれの目的があると思うので、自分で費用を出して学ばばよい。多少の支援はあってもよいかもしれないが、基本的には市が費用の負担までする必要はない。」

デイトマー委員「この会議で提言するのは、あくまでも市に対してなので私たちのイメージだけ明確にして、具体的な手法に関しては市に任せるのがよいと思

う。」

ピーターソン部会長「1つ確認しておきたいのだが、来たばかりの人というのは日本に来たばかりの人か、それとも川崎市に来たばかりの人か。どちらのイメージか。たとえば、電車の乗り方などは川崎ではなくてもすでに日本に住んでいる人はわかると思う。」

スタント委員「川崎市に来た人ということで、ウェルカムセットの内容が中心でいいのではないかと思う。」

徐委員「私はもう少し日本での生活に関する幅広いものがあると思う。川崎に住んでいても、東京に働きに行ったりすることもあるので、電車の乗り方など川崎市のことだけに限定しない方がいいと思う。個人だけではなくて、大学の留学生や企業なんかなにもアプローチできるといいのではないか。」

チャクラヴァルティ委員「私がイメージをしていたのは、日本に初めて来て生活する人のための1、2時間くらいのウェルカムセットの簡単な説明だ。日本に初めて来た人が一番困ると思う。」

キースタ委員「日本に来たばかりの人たちだけでなく、川崎市に引っ越してきた人たちに向けてもやったらいいのではないか。」

ディットマー委員「今、ウェルカムセットにはどんな情報が入っているのか。」

ヘイ委員長「次回、ウェルカムセットを用意してもらうことはできるか。」

事務局丸橋職員「前回、2人が欠席だったときに用意した。必ず入っているのは、防災・災害、ごみの分別、外国人の皆さんへの3つだ。」

牟委員「オリエンテーションは必要だと思う。私は市民館の日本語学級のボランティアの先生にいろいろ教えてもらって助かった。」

ピーターソン部会長「そろそろ時間なので、今まで話してきたことについて4つほど確認したい。まず、オリエンテーションをすることについて賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）次に、日本語学習とオリエンテーションを別々に考えるということに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）次に、オリエンテーションは義務にしないということに賛成の人は手を挙げてください（全員賛成）最後に、日本語学習については、オリエンテーションの中で紹介するというように賛成の人は手を挙げてください。」

サリ委員「質問だが、日本語学習についてはもう審議しないのか。」

ピーターソン部会長「次回も引き続き審議はする。回りの資料のリクエストは何か

あるか。」

ディットマー委員「資料のリクエストではないが、どんな情報があったらいいかを宿題として考えてきてはどうか。」

ピーターソン部会長「では、それは宿題にする。みなさん考えてきてください。これで部会を終わりにする。」

【地域生活部会】

金部会長「それでは、地域生活部会を始める。前回会議の内容確認は全体会でもあったので、今回は省略してよいか。（異議なし）では、さっそく審議に入る。今日のテーマは、医療・病院についてだ。まずは事務局から資料の説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料6-1に基づき説明。）

金部会長「何か質問はあるか。」

ケゼングア副委員長「1点だけ確認したい。MICかながわの医療通訳派遣についてだが、事業が2つあるようだが利用方法は同じか。」

事務局高橋専門調査員「どちらも同じだ。申し込みは、医療機関。費用も1件3時間、3,240円だ。」

韓委員「MICについてだが、協定医療機関しか利用できないのか。そうだとしたら、MICは協定医療機関を増やそうとしているのか。」

事務局高橋専門調査員「基本的には、協定医療機関での利用となる。MICとしても協定医療機関を増やそうとしているので、独自事業というかたちで展開しているのだと思う。」

金部会長「今日は、課題とアイデアについてあらためて明確にしたうえで、参考人招致をどうするかということを決めたいと思う。それと、その前に事務局から追加で報告したいことがあるそうなのでお願いする。」

事務局高橋専門調査員「資料には載せていないが、報告したいことがある。MICかながわに参考人として来てもらう可能性があるということだったので、もし依頼をした場合にきてもらえるかどうかの確認をした。まず、依頼があればぜひ行きますということだった。ただ、そのときに会議の説明をする中でタブレットを使った同時通訳というアイデアについて話したところ、MICかながわとしては現実的ではないと思うという意見をいただいた。医療通訳は、たんに言葉を通訳するだけではなく、表情だったり、症状だったりも見なが

ら通訳するので、フェイス・トゥ・フェイスで対応することがとても重要とのことだった。あくまでも私が電話で聞いただけなので、非公式の回答ではある。ただ、私は理由を聞いて納得した。たぶん、参考人として来てもらっても基本的には同じ回答になると思う。」

金部会長「今、事務局から報告があった通りだ。タブレットの件が現実的ではないとすると、MICに来てもらう必要があるのかということになる。何か意見はあるか。」

蒋委員「8年前に利用したことがある。事前の予約が必要だし、自分で予約はできないが、すごくいいと思っている。少し不便だと感じたのは、病院なので待ち時間がある。予定時間よりも遅れてしまうこともあるので、通訳の人も待たなければいけない。」

タカハシ委員「医療通訳が、専門性が高いということはよくわかった。でも、たとえば普通の風邪やいつ薬を飲めばいいかなどの簡単なケースもあると思う。それと、知り合いはドラッグストアで薬を買うときに困ったそうだ。」

バルトコバ委員「医療通訳で事前の予約が必要なのはしょうがないと思う。私もロシア語の翻訳の仕事をしているが、当日に連絡が来てどうしても対応できなくて断ることもある。」

金部会長「利用する側からすると不便と感じるかもしれないが、派遣する側からするとしょうがない事情がある。」

ホサニ委員「タブレットのアイデアはいいアイデアだと思っていたが、いろいろと説明を聞いて考えが軽かったと思った。簡単なケースもあるかもしれないが、それでもやっぱり責任があると思うので、簡単なケースなら素人のボランティアでもできるとは言えない気がする。」

葉委員「市はMICかながわに費用負担をしているが、もしコストが安ければ英語、中国語、韓国語の3言語だけでも市立病院に通訳スタッフを常駐させることはできないか。」

ケゼングア副委員長「コストだけの問題ではないと思う。通訳ボランティアのリソースの問題がある。」

河委員「MICかながわは川崎市だけではなくて、神奈川県全体で活動しているので、川崎市にだけリソースを割くということではできないと思う。」

河本委員「3、4年くらい前にブラジル人やラテン系の人が多く住んでいる大泉町という所に行ったのだが、大泉町ではブラジル人とペルー人のための医療

マニユアルをポルトガル語とスペイン語で作っていた。それがあると、スムーズにお医者さんとコミュニケーションがとれるそうだ。」

タカハシ委員「たぶん、茨城県にもガイドブックがあったと思う。それと、資料にある医療関係の情報の認知・利用状況だが、やはり全体的に『知らない』という回答が多いように思う。まずは市立病院で積極的に紹介したりできないか。」

ホサニ委員「初めて病院に行ったときは、過去の病気のことや症状などいろいろと登録しなければいけないと思うが、質問は全部日本語で書いてある。日本語が苦手な外国人にとっては難しいので、母語で記入できるとよい。」

金部会長「残りの時間が少なくなってきた。ひとまず、タブレットを使った同時通訳というアイデアは実現が難しそうだが、今後も審議を続けるか。それとも別のアイデアを模索するか。他のアイデアを模索することに賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）では、MICかながわに参考人として来てもらうというのもひとまずなしということではいいか。（異議なし）それでは、残りの時間は、防災・災害について審議したい。みなさん、何について話し合いたいのか。それと、資料のリクエストを出して欲しい。」

タカハシ委員「震災があったときに、外国人が何に困っているのか知りたい。日本人から外国人への不満もあれば知りたい。」

河本委員「川崎市には防災情報のアプリがあるが、多言語にも対応して欲しい。」

タカハシ委員「震災の後に、たとえば家が壊れた場合などどんな手続きが必要になるのか知りたい。」

金部会長「時間になったので、今日の部会はここまでとする。事務局は、リクエストのあった資料について、できる範囲で対応をお願いする。」

【全体会】

ヘイ委員長「それでは全体会を再開する。まずは、部会報告を情報・社会教育部会からお願いする。」

ピーターソン部会長「今日は国際交流協会の方に参考人で来ていただいて、話を聞いた。事前の質問と回答は資料にあるので、割愛させてもらう。参考人招致の後には、日本語学習とオリエンテーションコースについて審議した。日本語学習とオリエンテーションコースは関連しているので今回と次回の2回、一緒に考えようということにしていたが、オリエンテーションコースの中で日本語

を教えるというのは違うということになったので、別々に検討していくことになった。それと、行政がオリエンテーションコースを行うべきか、ということについても話し合った。民間だと情報に偏りが出てしまうのではないかと、といった意見や基本的な情報なので行政がやるのがよい、といった意見、国際交流協会にお願いをして市はそれを支援するというかたちはどうか、といった意見が出た。オリエンテーションコースは義務化するか、ということも論点としてあがり、ドイツなど海外の事例についても踏まえたうえで、私たちは川崎市の会議ということもあり、義務化はしないということになった。誰がオリエンテーションコースの対象とするかということについても話し合い、基本的には来日して間もない人たちが主なターゲットということになったが、すでに日本に長く住んでいる人でも川崎市に引っ越してきた人たちもいるので、その人たちも対象からは外さない。オリエンテーションの内容については、まだはつきりとまとまってはいないが、せっかくウエルカムセットをもらっても実際に中身を読む人は多くはないのではないかと、ということでもウエルカムセットの中身を中心にしたかどうかというアイデアが出た。日本語学習については、次回引き続き審議することになった。」

ヘイ委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）では、続いて地域生活部会の報告をお願いします。」

金部会長「今日は、医療・病院に関して審議した。このテーマでは、すでにタブレットを使った同時通訳というアイデアが出ていた。そのことも含めて、MICかながわに参考人として来てもらえそうかということ事務局で確認してくれたそうだ。その際、タブレットのアイデアについては、非公式ではあるが現状では考えておらず、現実的ではないという意見をもらったそうだ。医療通訳は、患者に付き添って顔色などの状態も見ながら通訳をする専門性の高いものなので、ただ言葉を通訳するだけではなく、タブレットではそれはなかなか難しいようだ。事務局を介した非公式の回答ではあるものの、実現性が低いだろうということになったのでタブレットのアイデアについては審議を継続しないことにした。その後は、いろいろと別のアイデアも出たが、とくにまとまっていない。残りの時間では、防災・災害についても少し審議した。緊急災害情報の多言語化ややさしい日本語といった意見や被災後の手続きが不安だといった意見が出た。」

ヘイ委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）では、私から。今の時点では

とくに参考人招致の予定はないか。」

金部会長「今の時点ではない。」

ヘイ委員長「他にあるか。（なし）では、次に実行委員会報告だ。

ニューズレター編集委員会から願います。」

葉委員「委員長になった葉だ。今日、話し合ったのはNo. 60についてだ。

オクサナさんがウクライナについて、私が風しん対策について書くことになった。」

ヘイ委員長「続いて、市民祭り実行委員会の報告を願います。」

サリ委員「私が実行委員長になった。前回の会議で決めたように、すでに参加予定

のイベントが3つある。具体的に何をするかは、次回以降話し合っていくが、

3つ以外にも参加したいイベントがあれば提案して欲しい。」

ヘイ委員長「では、最後に先日、4月12日に市長報告をしてきたので、その報告

をしたい。詳細は、追加で配ってもらった資料に載っているのを見て欲しい。

市長からは、ぜひ機会があれば会議に参加したいということをおっしゃ

っていただいた。本日の議事は以上だ。事務局から事務連絡を願います。

（なし）今日は、事務連絡はないということなのでこれで終わりにする。

次回の会議は5月21日の日曜日、午後2時からここ国際交流センターで開催

する。これで2017年度第1回第1日の会議を終わりにする。お疲れさまで

した。」